

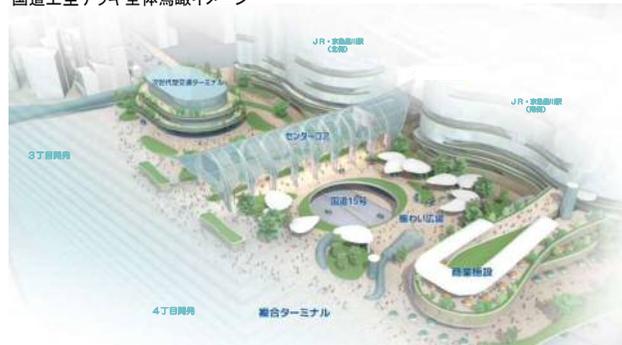
## 品川駅西口駅前広場計画において 考慮すべき視点

＜新しい「日本の顔」となる象徴的な空間を世界へ発信＞

○交通結節機能の強化はもとより、広域的な交流や賑わい、サービスや防災など、多彩な機能を備えた空間の整備を官民で進めることが重要

○首都圏と世界、国内の各都市をつなぐ広域交流拠点・国際交流拠点としての高いポテンシャルを活かしたまちづくり

国道上空デッキ全体鳥瞰イメージ



国土交通省作成イメージCG動画

次世代交通ターミナル内観イメージ



国土交通省作成イメージCG動画

次世代交通ターミナル外観イメージ



国土交通省作成イメージCG動画

◆交通機能

- ・品川駅、品川新駅（仮称）との連携
- ・西口と北口の歩行者広場の連携
- ・バリアフリー動線の確保
- ・屋根をかける等の東西自由通路の延伸

◆交流機能

- ・品川新駅（仮称）との連携
- ・国際交流拠点の形成
- ・周辺まちづくりとの連携
- ・デッキレベルで駅とまちをシームレスにつなぐ歩行者ネットワークの整備
- ・次世代型モビリティターミナルの整備

◆サービス機能

- ・玄関口としての総合インフォメーションの充実
- ・交通・観光・MICE等の情報発信
- ・快適でわかりやすい待合空間

◆景観機能

- ・玄関口にふさわしいシンボリックな空間の演出
- ・緑豊かな憩い空間の整備
- ・建物と公共空間の融合
- ・ヒューズスポットとなるラウンジ等の整備

◆防災機能

- ・特定緊急輸送道路機能（国道15号）の確保
- ・避難動線、1次滞留空間の確保
- ・防災備蓄倉庫の整備 等

◆賑わい機能

- ・駅ビルと一体的に道路上空を活用した商業施設
- ・連続した賑わいを演出する多様な空間
- ・周辺のまちづくりと連携したイベントの開催
- ・オープンカフェ等による賑わいの創出



写真：バスタ新館



写真：ソニーセンターベルリン（ドイツ・ベルリン）



写真：ベルリンストリート（ドイツ・ベルリン）

品川駅西口  
駅前広場



写真：東日本大震災時の対応 出典：航空自衛隊ホームページ (<http://www.mod.go.jp/asdf/dhtakine/saigai/index2.html>) を加工して作成



写真：観光情報センター（ポルトガル・リスボン空港）



写真：ショッピングモール（ルーマニア・ブカレスト）

■利用者特性の分析

○鉄道利用者

- ・鉄道駅相互の乗り換え交通
- ・駅周辺地区や駅勢圏に目的を持つ鉄道利用者交通

○非鉄道利用者

- ・結節点周辺地区に目的を持つ自動車交通（バス・タクシー等を含む）
- ・周辺施設相互の移動が徒歩による移動

※品川駅西口周辺の地域特性の明確化

今後、品川駅西口駅前広場計画とガイドライン2014との整合を図る必要あり



**品川駅・田町駅周辺  
まちづくりガイドライン 2014**

平成26(2014)年9月

東京都

2 まちづくりガイドラインの構成

本ガイドラインの構成を以下のとおりとする。

品川駅・田町駅周辺地域の将来像

**「これからの日本の成長を牽引する国際交流拠点・品川」**

将来像1：国内外のビジネスパーソンの活力にあふれる最も進んだビジネスのまち

将来像2：世界の人々が集い交わる文化・知の交流のまち

将来像3：世界に向けた次世代型の環境都市づくりを実現するまち

将来像実現のための7つの戦略 (Project)

Project1：世界から人・企業を集める企業誘致・MICEプロモーション

Project2：グローバルな活動拠点にふさわしい居住・潜在環境整備

Project3：世界に誇る活力と潤いのある景観・環境形成

Project4：広域アクセス性の効果を最大化する駅機能の強化

Project5：拠点性を高める道路ネットワークの構築

Project6：活発な都市活動を支える快適な歩行者ネットワークの構築

Project7：安全・安心な防災都市づくりの推進

まちづくりの誘導の方向 (個別地区編)

1 品川駅北周辺地区 先端技術と国際文化等の交流する国際的な拠点の形成

2 品川駅西口地区 新たな価値を創造する場となる MICE の拠点の形成

3 芝浦水再生センター地区 環境都市づくり、緑豊かなオープンスペースの形成

4 品川駅街区地区 品川駅とその周辺が調和したまちづくりの実現

5 その他の地区 (品川浦・旧東海道地区、田町駅東口北地区、田町駅東口地区、田町駅西口地区)

実現に向けた進め方

- ・計画・構想段階における体制づくりと計画の具体化
- ・市街地整備段階における計画・事業調整
- ・機能立地段階における誘導やまちづくりガイドラインの管理
- ・まちの成熟段階におけるまちの維持・管理・運営

「現況分析イメージ」

「設計への反映イメージ」

「整備効果イメージ」

モビリティの利用シーン

来訪目的, 来訪後の周遊パターン

端末交通手段分担率

来訪者の属性

次世代モビリティ利用シーンの想定

- 各モビリティの利用者属性の想定
- 利用パターンの想定

モビリティネットワーク設計

- 需要・距離・利用シーンに応じたモビリティ形態の想定
- サービス範囲の想定 (目的地でのデポ等の設置範囲など)
- サービスレベル設定
- デッキ上を走行する乗物の特性特定

モビリティターミナル・広場空間の魅力維持

- 歩行者・モビリティの動線の設計条件
- 動線と広場の容量の設計条件

安全性、快適性の確保

- 需要や周辺状況に応じた運用条件 (利用制限・プライシング・動線変更など)

日常

来訪者の多様性・交流人口の拡大

乗換利便性の向上及び効率化

街の魅力による回遊性の向上

国道上空のデッキ化による国道15号の渋滞緩和

非日常 (災害発生時)

帰宅困難者対応可能容量

災害支援者の待機受入容量 等

品川駅を介した移動の実態

距離別・目的別需要

出発地・目的地分布

集中・混雑